

仮設住宅 かくあるべし！01



1995年1月17日、午前5時46分。突然、戦後最大級の大震災が阪神地区一帯を襲いました。この震災での死者は6,303名、行方不明者は2名、負傷者は3,844名で、被災者すべてを合わせると約30万人にもおよびました。一方、物的被害も大きく、全壊した建物数は93、773棟、全壊世帯数は182、610世帯に達しています。数字上のデータだけを見ても、あらためてこの災害の大きさを実感させられます。

さて1990年に起きた震仙普賢岳災害も地元・長崎に住むわたしたちの記憶にはしっかりと刻まれています。これら阪神大震災、普賢岳災害に代表される自然災害が、近年の日本を頻繁に襲っていますが、わたしたちはこうした出来事を他人事として受け止めるわけにはいかないと感じました。いずれの災害も、それまで全く普通の幸せな生活をおくっていた人たちが、何の前触れもなく災害に遭遇し不自由な生活を強いられています。こうした不幸は、いつ自分たちの身に降りかかるかあってもおかしくないのです。

わたしたちは、特に被災後の住まいとなる「仮設住宅」が被災者の人たちの生活に大きな影響を与えると考え、現在使われている仮設住宅をベースにその問題点について、自治体・研究機関・報道機関などの協力を得ながら調査し、よりよい避難生活をおくるには何が必要とされるかについてのアイデアを探り、その改善策をデザインしました。

さてわたしたちは、そのプレゼンテーションの手段として理想の仮設住宅像を「リカちゃんハウス」とオーバーラップさせて表現してみました。わたしたちの世代にとって、リカちゃんファミリーは平和で幸せな家庭の象徴です。しかし今回の課題が決して他人事ではなく、わたしたちの身近な問題として考えるため、あえて「リカちゃんハウス」をその舞台として選びました。



仮設住宅 かくあるべし！02



■ 摂羅点

仮設住宅の室内には、夏物・冬物衣類をまとめておなくだけのスペースはございません。仮設住宅には钉を打つことはいけないという規則があり、また壁が薄い合板1枚でできているため、生活用品をおくための棚をつくることができません。

■ 解決策

対策として、壁と壁との間につっぱり棒（伸縮棒材）を用意し、钉を打つことなく複数板を設けることができます。钉を打つ必要がないので、壁を傷つけることなく取り付けや取りはずしが可能です。壁としてだけではなく、室内に洗濯物を干すためにも利用できます。

■ 摂羅点

仮設住宅の居住空間が狭いといっています。神奈川県では、戸の収納スペースが90cm四方の幅合せ1軒の収納入れが1つあります。これ、なにもう問題がなく宅地内にあります。ふと、この問題が発生する可能性があります。その問題も困るという問題です。

■ 解決策

解決策として、床下に収納空間を設けます。位置と部屋によっては10cm四方、キッチンでは90cm四方、キッズルームでは40cm四方のスペースを確保します。規模的には和室では90cm四方のいずれかを考慮して設けます。床下に収納するには、深さの少ない荷物を収納すると、床下部分の居住空間が確保できます。



钉を使わずつっぱり棒での棚の設置



収納空間の拡大で居住空間の大幅増

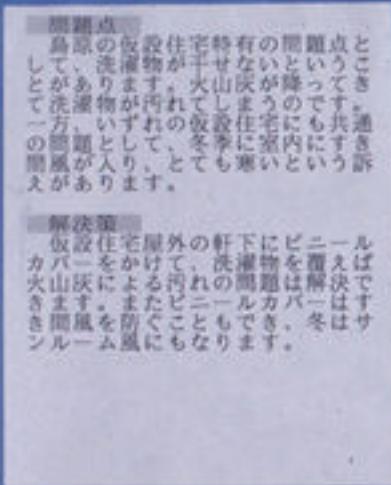


床下部分を収納空間に利用する工夫

仮設住宅 かくあるべし！ 03



ビニールシートで状態した物干し台



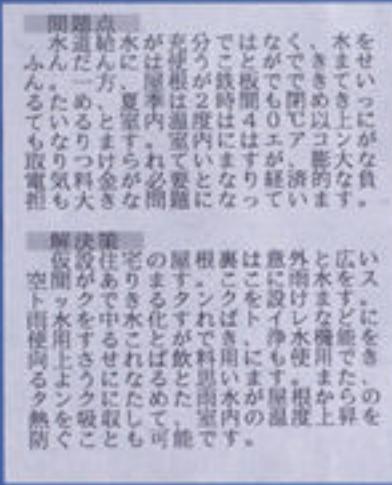
問題点として、通気性の問題点をうなづく。共に使う間違いでも、室内にいるうるさきの問題点をうなづく。また、洗濯物が干せない、床暖房がないなど、冬の室内に寒いと感じる問題点をうなづく。

解决策

ルばですサ
ニ薙解一冬
ビをはバ。
に物題力さす
下瀧開ルでま
軒洗の外れ、
二とならぬ
西ビこも
屋けるたぐい
石かよ防風
住をに。をみ
設一灰す。
仮バ山また
力火きシソ



雨水の浄水化でみんなの水利用



木をもててきる上に大なる、あきめいにコ形的のまくで閉じア、済いながでもノエが絆つてはと鉄時4にはなりつてこ鉄時4にはなりつて分うが2度内いとにすれど根は温室内で要観察がは屋季内。れ必問水に、夏室すらがながふん。るても取電点始んだ方、とまりけ金き道だ一ためりつけ料水ふん。たいなり氣もわ

解决问题

のをいふ。にをき、のを
木をす。ど機用なら昇
ムをす。根部
意に設い水使。根温度
はこをト。にまがの。
裏にクバキ用い水内。
根。それで料思雨室で
原す。クガが飲とた。能
のまる化とばるめて可
名りき木これなしもし
住で中するに取し
設がクをすさうク吸
空ト雨使するタ熱防



雨水をストックする屋根裏のタンク

仮設住宅 かくあるべし！04



問題点

床面のて自もと、床面られ不なるす。大えすの中にあげ体危險人まつ。大えすが者大イもとにつき下がふ。見をるに難給てトサつこつづけられで。

解決策

入浴の際、転倒します。対策や高めにあります。段差をつけます。また、手すりをつけて、立ち座りの際に、手すりをつけて、はは段差のない構造で設計するべきです。

問題点

薄い壁からのお互いの声を聞き取りやすくしておれます。そんなに心配が生活で仕事ががんばれています。そこで、仕事でストレスがたまっています。

解決策

吸音材を一時的に貼り、それを守ることは、ラオ生生活でストレスを発散することができます。



立ち座りを楽にする手すりの設置



トイレ・浴室前の段差緩和スロープ



吸音材入り間仕切壁でストレス解消